

意匠ニ當
ル者出
鮮ス事キミ
ル者出

東京市麹町區内幸町一丁目六番地華族

百八十二

被 告 人 相馬 順胤

同 人 實母 被 告 人 西 田 りう

同 家 々 令 被 告 人 泉 田 胤 正

同 家 々 扶 被 告 人 青 田 綱 三

同 家 々 從 被 告 人 石 川 榮 昌

同 家 々 從 被 告 人 遠 藤 吉 方

芝公園地第十一號同家前家令

芝區巴町番地不明醫師 被 告 人 志 賀 直 道

右告發代理人陳述任ツリ候告發人錦織剛清ハ相馬家ノ舊臣ニシテ故相馬誠胤ノ總理代人ヲ托サレ當時

相馬家ノ秩序ヲ正確ニシ家政ヲ改革セントスルニ當リ種々紛議ヲ生ジ遂ニ裁判ヲ煩ハストニ至レリ而シテ告發人剛清ガ總理代人ノ資格ヲ以テ行政ニ對スルハ勿論司法權ニ涉ルモ獨立シテ訴訟ヲ爲シ得ルノ資格アルハ大審院ノ判決ニ於テ明確ナルヨリ進ンテ相馬家ノ財産整理ヲ施サントスルニ當リ被告等ハ事ヲ左右ニ托シ與ツテ暗々裡ニ奸策ヲ施シ告發人が東京裁判所へ出訴シタル事件ハ告發人ヲシテ満足セシムル能ハザルニ至リ告發人ハ進ンテ東京控訴院へ上訴シ同院民事第一部ニ御審理ヲ仰クニ際シ本人相馬誠胤ノ身上ニ危害日夕ニ逼迫ノ恐レアルヨリ伯爵東久世通禧ノ監督ヲ受ケタキ旨懇請シタルヲ以テ明治二十五年二月二十二日午前九時本人出頭スベキ旨ノ召喚狀ヲ送達セラレ茲ニ於テ本人相馬誠胤ガ東京控訴院へ出訴セザルヲ得ザルノ時機トハナレリ然ルニ本人誠胤ハ元來被告共ガ相馬家ヲ横領センガ爲メ誠胤學業成リ歸邸ノ後ニ於テ瘋癲病ト唱ヘ常ニ幽閉セラル所ノ者ナルガ故一朝正明ナル判官ノ訊問ヲ蒙ル時ハ彼誠胤ハ眞實ヲ吐露シ被告人等ノ有害トナルヲ勿論ナリト思考セシヤ彼被告人等ハ不正ニモ恐レ多クモ本人誠胤ヲ謀殺スルニ若クハナシト遂ニ誠胤ハ出頭期日ナル二十五年二月二十二日午前第七時死去ノ趣キヲ以テ控訴院へ届出テタルヨリ告發人ハ主タル本人ノ死亡ニ因リ訴訟ヲ取下ケタルモノト看做サルノ場合ニ遭遇シタリ當時告發人ノ遺憾限リナキ次第ニテ令ヤ文明ノ世ノ中ニシテ正義行ハレス邪道益々逞シフスルニ至ルハ獨リ相馬家ノミナラズ世間往々ナキニ非スト茲ニ於テヤ告發人ハ闇ノ世ノ中ト題スル一小本ヲ著シ其顛末ヲ詳記シ之ヲ世ニ公ケニシ而シテ後身ヲ閑靜ノ地ニ置キ相馬家ノ將來ヲ思考シ來ル處彼ノ本人誠胤ノ死去ハ益々以テ被告人等ノ謀殺ニ係リタルヲ發覺シタルニ付其大要ヲ左ニ陳述仕候

百八十三

第一、相馬誠胤ノ死亡ハ明治二十五年二月二十二日午前七時トシテ同日午前九時東京控訴院民事第一
部へ捧呈シ而シテ其屆書ニハ被告入醫士中非常二郎及ビ楠做、片山國嘉ノ三名ノ連署ヲ以テ證明シタ
リ然レニ誠胤ハ同日午後五時三十分迄ハ存命シタル者ニシテ其證明ハ同人妾東明一ノ能ク知ル所ナ
リ去レハ被告入等ハ東京控訴院出廷ノ期日ニハ誠胤ヲ謀殺スルノ意思早ク既ニ定マリ居リ而シテ毒藥
ヲ施シタルモノニ係リ當日午前七時頃ニ、果シテ死去ス可キモノト看做シ未タ死セサル前ニ死去屆チ
作成シタル者ナルト聊カ疑ヒテ容レサル理由ニ有之候

第二、誠胤ガ死去ニ就テハ其診斷書ニハ病死トアリテ吐血シタル事實ナシ然ルニ誠胤カ死去ノ當時ハ
吐血シタル事勿論總身紫色ヲ呈シ非常ニ苦ミタルトニシテ他ノ病死者ト異ナリタルハ同人ノ妾東明一
ノ能ク知ル所ナリ依テ東明一ノ御訊問被下候ヘハ其事實ヲ分明ナラシメ申可候

第三、誠胤カ死ニ臨ンテ吐血シテ苦シタルトハ前陳ノ如ク警視廳醫務局長山根正次及ビ町警察署長
立會死体臨檢ノ際モ亦吐血シタル者ニシテ其吐血ハ今尙警視廳ニ存在致シ居候ニ付誠胤ガ死去毒殺ニ
係リタルトハ之ヲ分拆シテモ明カナルモノト被存候

第四、誠胤カ病ニ罹リ苦痛ノ折妾東明一ノ生ム所ノ長男秀胤ニ相馬家ノ相續チ爲サシメ吳レヨトノ
事ヲ告發人錦織剛清ヘ傳言セヨト遺言アリシトハ東明一ノ能ク知ル所ニ有之候

第五、誠胤ノ死去後被告入等ハ事ノ發覺ヲ恐レ種々ナル謀議ヲ凝シタル中ニ著ルシキ事跡アリ箇ハ誠
胤ヲ埋葬スルニ當リ地底四尺ニ穿テ埋メントセシカ漸ク三十五尺ニ穿テ玆ニ埋葬シタリ凡ソ埋葬チ
ナスニハ通常七尺乃至十尺ヲ程度トス然ルニ三十五尺ノ地底ヘ埋メタルモ畢竟毒殺ノ形跡ヲ再ヒ顯ハ

ス能ハサルトテ豫防シタル者ニシテ即チ被告入等ノ謀殺シタル證據有之候

第六、故誠胤ノ長男秀胤ヲシテ癡狂病ト稱シ之ヲ遺待シ或ハ謀殺セントスル候
上ヲ保護スルカ爲メ適宜ノ御處分アラモラシ度希望仕候

第七、故誠胤ノ實父相馬充胤ノ死去(明治二十一年)ノ有様及ビ故誠胤ノ妻死去ノ原因及ビ該妻ヲ娶リ
タル理由ハ被告入等カ共謀ノ事實アル事ト追想スルモ今之ヲ陳述致サス尤モ醫士月塚文海内務省衛生
局長後藤新平ノ能知ル所ニ有之候

右ノ理由ニ付相馬誠胤ノ死去ハ被告入等カ共謀謀殺ヲ遂ケタル者ニ相違無之候殊ニ又近時自首狀トシ
テ告發人ヘ送ラシタル一書アリ此ノ書タル文章簡ニシテ意蘊サハル所アルカ如シト雖モ爲ニ其事實ヲ
ル一推知スルニ餘リアリ勿論御訊問中何人ノ自首狀ナルヤ明瞭致スヘクト存候得共一應御參考ノ爲メ
提出仕候條何卒被告入等相當ノ御處分被成下度此段奉告發候也

明治廿六年七月十七日

右 錦 織 剛 清
右代理人 岡 野 寛
東京地方裁判所檢事正 工 藤 則 勝 殿

相馬事件 裁判明細錄第一卷終

明治二十七年三月四日印刷
明治二十七年三月五日出版
八日發行

(定價金拾貳錢)

著者兼發行者 新潟縣平民

西協今太郎
東京市京橋區南八丁堀
三丁目貳番地寄留

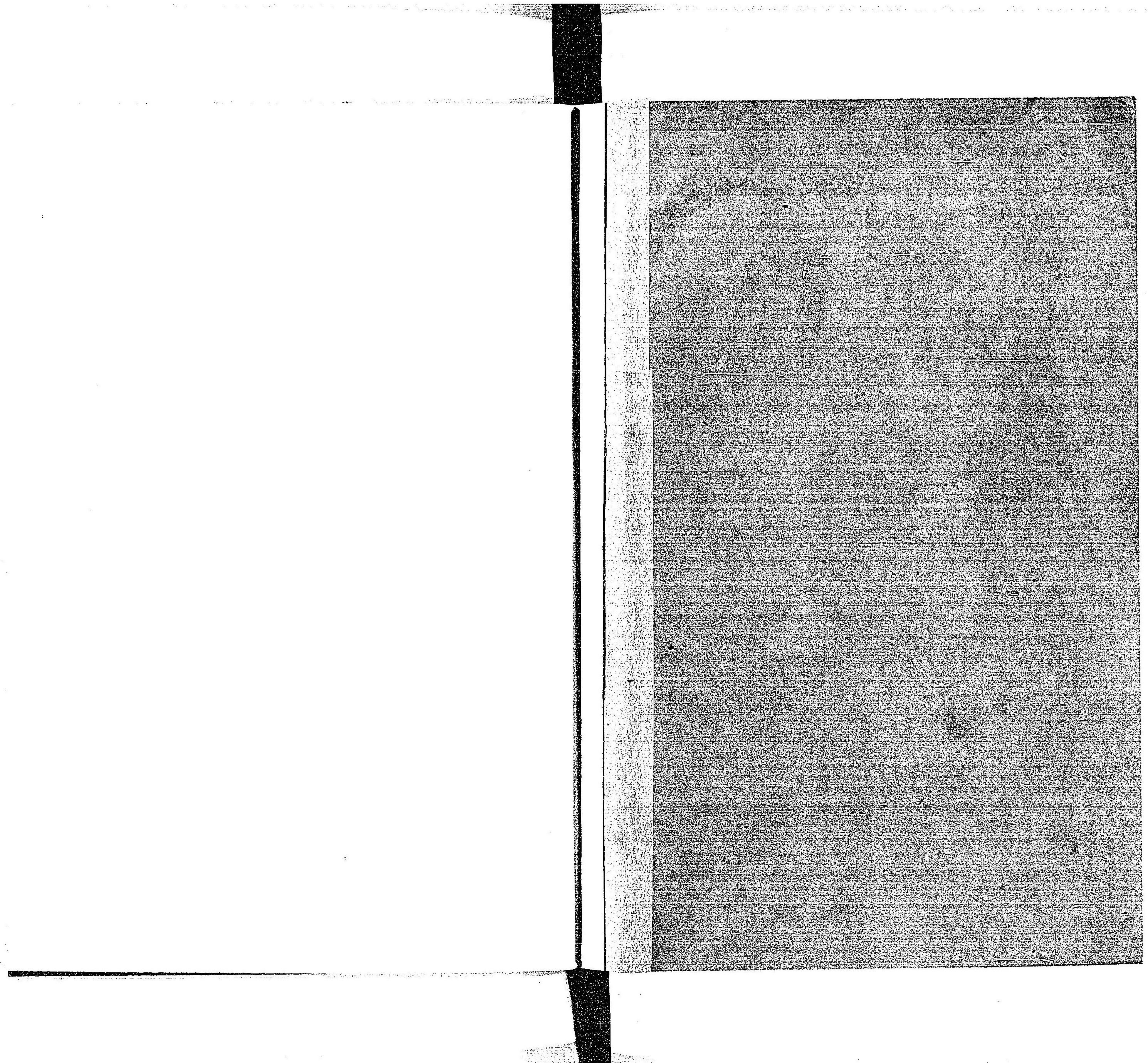
印刷者 和田龜太郎
東京市神田區佐
柄木町十一番地

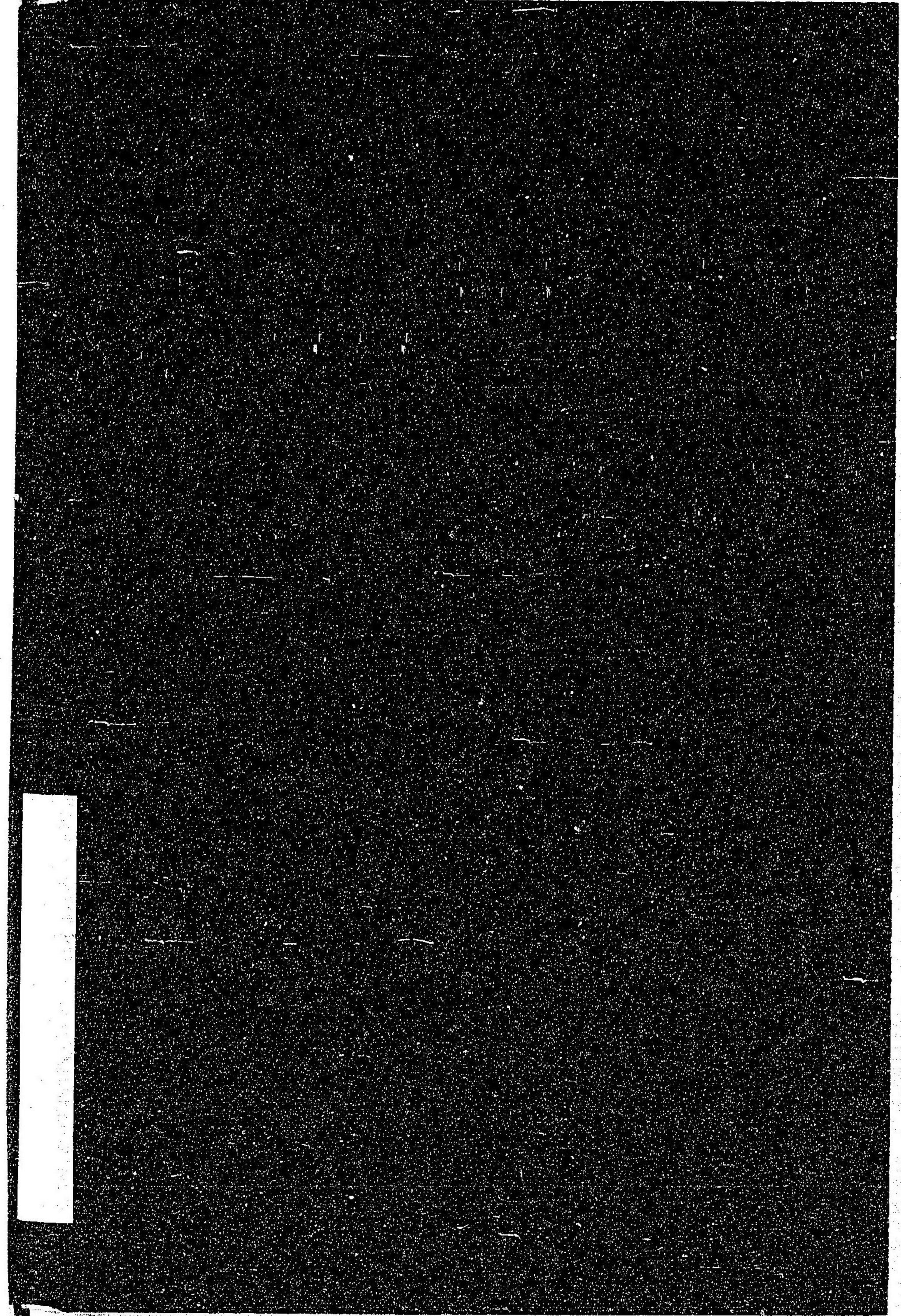
印刷所 二六社
東京市神田區通
新石町十六番地



發行所 日本書行

東京市京橋區築地
壹丁目貳拾五番地





特17

223

相馬
事件 裁判明細録

国立国会図書館

036459-000-0

特17-223

相馬事件裁判明細録 第1巻

西脇 今太郎/編

M27

BBR-0132

